

令和8年度

「運営に関する計画」



大阪市立榎並小学校

令和8年4月

大阪市立榎並小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、今年度創立150年を迎える歴史と伝統のある学校である。11月には記念式典を計画している。児童数545名、通常学級全学年3クラスの18学級、特別支援学級6学級、今年度より通級指導が開設された中規模の学校である。ここ数年児童数が増加傾向にあり、当分の間高止まりの傾向である見通しである。

本校では、大阪市教育振興基本計画の3つの最重要項目「安心・安全な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」を学校運営の中心に掲げ取り組んでいくにあたり、本校は重点的に「豊かな心の育成」「学力の向上」に取り組んでいく。

本校児童の規範意識は高く、「いじめはどんな理由があってもしてはいけない」「規則を守って生活する」といった意識は高い。また、相手のことを考えた発言や行動ができる児童が多数育っている。半面、いじめに発展する恐れのある事案の認知件数は少ないとは言えない。未然防止と早期発見を心がけ、事案が発生し、指導を要する場合において本校の児童は、素直に受け入れ、きちんと向き合い解消しようとするため、解消率は100%である。このような実態から、自分や友だちの心とからだ、そしていのちを大切にできる意識を深く持つまでには至っていないところがみられる。そこで引き続き様々な教育活動を通じて、自他のこころ、からだ、そしていのちを大切に作る豊かな心を育てる取り組みを推進していく。

また、不登校児童の数が増えつつあることを踏まえ、正確な情報の共有、分析、素早い初期対応、継続的な指導、支援に努めるといった、学校組織が一丸となった体制を一層強化し取り組んでいく。状況の改善に努めるとともに、登校できなくても、学校以外の社会とつながれる機関と連携し、出席認定を行う等、減少に向けての対策を講じ、引き続き保護者や関係諸機関との連携を密にし、児童とその家族の気持ちに寄り添った対応を進めていく。

学力に関して、大阪市小学校学力経年調査において、標準化得点については、例年どの学年も大阪市平均(100)を上回っている。これらの結果より、一定の基礎基本に関わる学力は備わっていると考える。また、昨年度、一昨年度と研究教科を国語科に設定し、国語科の指導法に関する知識を深め、書く・話す・伝え合う活動を通して表現力の育成を目指してきた。研究を始めた当初は、自分の考えをもち、書いたり話したりして自分の考えを表現しようとする姿勢はあるが、話し手が話すだけで終わってしまうまたは、受け手が話を聞いて終わってしまう等、活動が一方的になってしまう場面が多かったが、2年間の研究の積み重ねにより、「伝え合う力」が育ちつつある。2年間の研究を経て培った力を活用し、対話的な学習による深い学びを目指すことが本校の課題であると考え

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和１１年度末の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。
- 令和８年度から令和１１年度の学校生活アンケートにおける「学校は安心できる場所だと思う」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合９０％以上を維持する。
- 令和８年度から令和１１年度の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を低下させない。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和８年度から令和１１年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を８０％以上を維持する。
- 令和８年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より０.１ポイント以上向上させ、令和１１年度まで維持する。
- 令和８年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より０.１ポイント向上させ、令和１１年度まで維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和８年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を６０％以上にし、令和１１年度には６５％以上する。
- 令和８年度から令和１１年度の１か月の時間外勤務時間の１年間の平均が５０時間以下の教職員の割合を８０％以上を維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

1. 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
2. パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用する時のルールはありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- A. 令和8年度の学校生活アンケートにおける「学校は安心できる場所だと思う」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合90%以上を維持する。
- B. 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を低下させない。
- C. 令和8年度の学校生活アンケートにおける「いる場所や時間、相手にあわせたあいさつをしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

3. 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。
4. 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント以上向上させる。
5. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。
- D. 令和8年度の学校生活アンケートにおける「学習を通して、自分の考えに自信をもったり、色々な考えに気づいたりすることができる」という項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上を維持する。
- E. 令和8年度の学校生活アンケートにおける「給食の前、体育の授業の後、トイレの後の手洗いをする」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合90%以上を維持する。
- F. 令和8年度の学校生活アンケートにおける「毎日朝ごはんを食べている」の項目について、「当てはまる（毎日食べている）」という最も肯定的回答の児童の割合を85%以上を維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

6. 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を60%以上にする。
7. 1か月の時間外勤務時間の1年間の平均が50時間以下の教職員の割合を80%以上を維持する。
- G. 令和8年度の学校生活アンケートにおける「タブレットをつかった学習は自分にとって大切だと思う」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合80%以上を維持する。
- H. 年次休暇の取得率を、付与されている日数の70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立榎並小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 1. 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。 2. パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS 等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用する時のルールはありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75% 以上にする。 A. 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「学校は安心できる場所だと思う」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合 90% 以上を維持する。 B. 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を低下させない。 C. 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「いる場所や時間、相手にあわせたあいさつをしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向Ⅰ 安全・安心な教育の推進】 いじめは絶対してはいけないという意識を高くもつ児童を育成する。 指標 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「どんな理由があってもいじめは絶対してはいけないと思う」という項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合 90% 以上を維持する。	
取組内容②【基本的な方向Ⅰ 安全・安心な教育の推進】 不登校児童の減少に向けて取り組みを進める 指標 不登校傾向にある児童の情報を共有するために、職員間で連携した対応がとれるようにする。また、登校できなくても、学校以外の社会とつながれる機関と連携し、出席認定を行う等、減少に向けての対策を講じ、月 1 回の部会、学期に 1 回スクリーニングシート及び生活指導事案シートを用いた全体会議を開催する。	
取組内容③【基本的な方向Ⅰ 安全・安心な教育の推進】 きまりを守ることにについて、全児童への意識化をはかり、各学年の発達段階に応じて学級活動等で振り返る場を設定する。 指標	

令和８年度の学校生活アンケートにおける「学校安心ルールや学校のきまりを守っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合９０％以上にする。	
取組内容④【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 人の立場に立って、物事を考え、互いの違いを受け入れることのできる児童を育成する。	
指標 令和８年度の学校生活アンケートにおける「友だちの気持ちを考えて発言や行動をすることができる」「自分とは考え方がちがっていても、友だちの考え方を大切にできる」の２つの項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を９０％以上を維持する。	
取組内容⑤【基本的な方向１ 安全・安心な教育の推進】 スマートフォンなどの利用する時の家庭でのルールを設定するよう家庭との連携を図り、犯罪被害から自らを守ることができる児童を育成する。	
指標 令和８年度の学校生活アンケートにおける「スマートフォン等を使う際の家庭での時間を決めている」の項目について「あてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を７５％以上にする。	
取組内容⑥【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 場に応じたあいさつを自分からできる児童を育成するように取り組む。	
指標 生活目標において、学期に１回あいさつに関する目標を設定する。さらに、その月の中で強調週間を設け、自己のあいさつについて児童が振り返ることができるよう取り組む。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立榎並小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 3. 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を 80% 以上にする。 4. 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。 5. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.1 ポイント向上させる。 D. 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「学習を通して、自分の考えに自信をもったり、色々な考えに気づいたりすることができる」という項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80% 以上を維持する。 E. 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「給食の前、体育の授業の後、トイレの後の手洗いをする」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合 90% 以上を維持する。 F. 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「毎日朝ごはんを食べている」の項目について、「当てはまる（毎日食べている）」という最も肯定的回答の児童の割合を 85% 以上を維持する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 国語科において、榎並小『主体的・対話的で深い学び』スタートガイドを運用し、主体的に学習に取り組む児童を育成する。 指標 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「自分からすすんで学習している」という項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合 85% 以上を維持する。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 学習の中で、児童が自分の考えをもち、表現できるような取組を進める。 指標 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「学習において、自分の考えをもつことができる」の項目と「自分の考えを人に伝えることができる」という項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85% 以	

上にする。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 学級で清潔調べを行い、ハンカチ・はなかみを常備し、手洗いの習慣を身につけようとする児童の意識向上を図る。	
指標 月1回学級で手洗い調べを行い、「給食の前、体育の授業や外遊びの後、トイレの後に手洗いができた」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」という肯定的回答の割合90%以上を維持する。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 食育の授業や給食委員会による啓発活動、学期に1回のパクパク週間での取組によって、食の大切さを児童に意識づける。また、保護者への取組として、食育だよりや学校ホームページで啓発活動を行う。	
指標 パクパク週間での朝ごはん調べにおいて、土日を含む7日間とも、朝ごはんを食べている項目に対し「当てはまる（毎日食べている）」という最も肯定的回答の児童の割合を85%以上にする。	
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体育の授業の準備運動時に、シナプソロジーや体力テストの結果等を活用して、体を動かすことの楽しさを味わわせ、運動の能力の向上を図る。	
指標 令和8年度の学校生活アンケートにおける「運動やスポーツを好きだ」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立榎並小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 6. 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 60% 以上にする。 7. 1 か月の時間外勤務時間の 1 年間の平均が 50 時間以下の教職員の割合を 80% 以上を維持する。 G. 令和 8 年度の学校生活アンケートにおける「タブレットをつかった学習は自分にとって大切だと思う」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合 80% 以上を維持する。 H. 年次休暇の取得率を、付与されている日数の 70% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】 学校で毎日学習者用端末を活用した教育活動を実施する。	
指標 毎日「心の天気」の入力や、グーグルワークスペース、デジタルドリル、教科書やドリルの QR コードなど、学習者用端末を活用した学習を週 3 回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX の推進】 情報を正しく安全に利用できる児童を育成する	
指標 全学年情報モラル教育を年間指導計画や「情報モラルについて考える週間」にのって、計画的、継続的に進めていく。高学年については、年 1 回以上外部講師を招聘した学習を行う。	
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 時間外勤務が増加しないよう、会議の内容を精選し、校内掲示板等を有効活用する。	
指標 週 1 回ゆとりの日 (18 時)、月 1 回以上定期退勤日 (17 時) を設定する。	
取組内容④【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 長期休業中、校務支援システムの機能を活用し、テレワークを充実させ、教職員が子どもの前で健康でいきいきと働くことができる環境をつくる。	
夏季・冬季休業中に、学校閉庁日を 4 日以上設定する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点